

研究所だより

第383号
2018年 1月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“七草なすな 唐土の鳥が 日本の国に 渡らぬ先に ストントン

『七草の歌』 古いわらべうた

“長き夜の 遠の睡りの 皆目醒め 波乗り船の 音の良きかな”

「なかきよの とおのねふりの みなめさめ

なみのりふねの おとのよきかな”

『初夢の歌』 室町時代から伝わる回文和歌

注：「たけやぶやけた」のように、逆から読んでも同じ音になる遊び歌



2018年 迎春

本年も宜しくお願い致します！

穏やかな正月、松の内もあっという間に過ぎました。暦の上では「小寒」を過ぎ、この日から「寒の入り」、節分までが「寒の内」と呼ばれ、厳しい寒さになります。健康に留意して過ごしましょう。

各校では3学期を迎え、子どもたちも教師も新たに目標を持ち、やる気に満ちあふれているのではないのでしょうか。

～業務改善／職員室改造計画～

(引用文献：教育ジャーナル1)

校務の「やめる・へらす・かえる」を今度こそ実現するために

(静岡県が取り組む多忙解消～未来の学校「夢」プロジェクト)

教育ジャーナリスト 和田 成

多忙の緩和に薄日が差してきた

あの画期的な学習指導要領が実施された頃、小学校で3年間、PTA活動に取り組んでいた(平成14～16年度)。そこで教師の多忙の実態を知ることになった。総合的な学習の時間が始まって、外部講師という形で地域の人々が学校で子どもたちと接するようになり、長年言われ続けた“開かれた学校”がようやく実現してきた。

従来のPTA活動を越えた“学校支援”も可能になりつつあった。その3年間で気づいたことの1つが「教師が教師でなければできないことに専念するために、教師でなくてもできることは保護者なり地域なりに任せてしまう仕組みづくり」だった。

その後、学校と地域との関係がどんどん良好になり「学校と地域が協働したほうが効果的な取り組み」や「むしろ地域や保護者(おやじの会など)に任せたい取り組み」なども発想できるようになった。行政では「学校支援地域本部」という学校支援の仕組みができた。ただ、これはあくまで「学校と地域が協働して子どもたちを育てよう」という取り組みであり、場合によっては地域との調整や新たな活動の創出など、教師の業務の点では、かえって増えたケースもある。教師の業務改善のために、文部科学省では授業以外の11の仕事を「教員のみが担える」「学校で教員以外が担うべき」「学校以外が担うべき」などに分類し、中央審議会に説明したという。また、教師でなくてもできる校内の仕事を担う業務アシスタントの配置も目指されている。そして、すでにこの2点に着手した(28年度～)取り組みがあった。それが、静岡県の「未来の学校『夢』プロジェクト」だ。

◇「未来の学校『夢』プロジェクト」から提案された重要な視点

提案された興味深い二つの視点

日本の教職員の多忙の実態を明らかにしたのが、平成18年度の「教員勤務実態調査」(文

部科省)。それを契機に各地で多忙化解消・軽減に向けた取り組みが実施されるようになった。

取り組みの成果をなかなか実感できないまま、10年後の28年度調査では、管理職をはじめ教師たちの勤務状況が悪化している実態を目の当たりにすることになる。例えば、平日の学内勤務時間は、小学校教諭11時間15分(前回10時間32分)・中学校教諭(同11時間)。これをようやく「看過できない状況である」として、29年8月には「学校における働き方改革に係わる緊急提言」(中教審)がまとめられている。こうした状況のなか、静岡県の「未来の学校『夢』プロジェクト」から興味深い視点が提案された。〈教員の長時間勤務の問題については、これまでもその解消に向けた取組が講じられてきたが、学校関係者の自助努力を求めざるを得ない状況が多岐にわたっており、抜本的な改善策につながっていないという現状が指摘されている。そこで本プロジェクトにおいては、従来の手法を改め、県内4小中学校をモデル校として指定し、人的資源を重点的に投下するとともに「校務の整理」に加えて「教職員の意識改革」を同時に目指す調査研究に取り組み、さらにその進捗管理を有識者による「第三者(学校教育関係者以外の者)の視点」も取り入れながら行うこととした。〉

「人的資源の重点投下」や「第三者の視点」は、夢プロだから可能なのかもしれない。でも、「校務の整理」と「教職員の意識改革」ならどこの学校でもできるはずだ。しかも、これが多忙の緩和の第一歩となる基本の取り組みになるようにも思う。具体的にはモデル校4校でこんなふうに取り組まれた。

日常の校務を“見える化”すると

夢プロでモデル校に求められた取り組みは、4校が共通に実施する共通実施事項と、各校・地域の実情に応じて実施する個別実施事項とが設定されていた。共通事項は三つ(プラス1)①校務の洗い出し・分類と整理②退勤時刻の上限設定③人的措置の分析④その他「その他」には、取り組みを成功させるために、教職員の勤務環境について、保護者・地域の理解と協力を得ることが示されている。



この課題は、学校の自助努力だけでは解決しないところまできている。逆に言えば、保護者や地域の支援を得られれば、事態は好転する可能性が見られた。まず「校務の整理」はどのように行われたのか。4校で校務の洗い出しを行い、教育委員会に置かれた夢プロの事務局で仕事の内容別に分類した。まず大きく「管理運営に関する業務」「指導に関する業務」「校内・校外行事」の三つ。そこからさらに細かく分かれる。数字はそれぞれの項目数。管理運営は、運営8、管理9、事務のうち庶務4・管財3・経理6、渉外5。合計35項目になる。指導は、教務7、指導のうち学習5・生徒7・特別活動3・特別支援3・進路3・その他(部活動指導・引率など)4、その他(研修会・出張等参加のためのレポート作成、外部人材活用のための対応など)4。合計36項目。行事は、学校行事としての儀式的(入学式など)5、文化的6、健康・安全的12、旅行・集団宿泊的4、職場体験1、その他(家庭訪問、入学説明会など)5。合計33項目。地区行事として健康・安全2、文化1で合計3項目。合わせて107項目。これは静岡県の学校に特有の業務ではなく、全国どこの公立学校でも行われているはずだ。これらの業務をこなしながら、教師たちは1日5、6コマの授業を行っている。これが今の教師の仕事の事実だ。

教師でなくてもできる仕事

教師が自分たちだけで一生懸命こなしている仕事の中にも保護者や地域が分担できる仕事もある。教師でなくてもできるはずの仕事にどう対応するのが望ましいのか、報告では次のように述べられている。

- 文書処理やアンケート調査等の事務作業 ⇨ 事務職員の協力のもとで効率的に処理
- 学校の施設管理や学校徴収金に関する業務 ⇨ 各学校での対応ではなく、行政当局(教育委員会)で対応
- 指導に関する業務では、中核教員の業務に分類できる物が多い

- 教育環境整備（登下校指導、花壇・農園等の整備など）⇨ 保護者・地域住民の協力を得やすい
 - 校内・校外⇨ 行事企画・運営の段階から保護者・地域住民との連携が重要
 - 芸術鑑賞会、交通安全関係の学校行事 ⇨ 行政当局や警察などの関係機関と連携し、行事の在り方を検討
- ほかに、「業務アシスタント」の有効性が述べられている。

配置された人材をどう生かすか

共通事項の二つ目は「退勤時刻の上限設定」。退勤時刻に上限を設定してこれを厳格に管理することで、業務の公立性を向上させる取り組みだ。この説明だけで、取り組みにネガティブなイメージを持つ教師も多いのではないだろうか。モデル校では平成28年11月21日～平成29年1月20日の2ヶ月間にこれを実施した（夏休みに2週間、施行）。上限は小学校19時、中学校19時30分に設定された。また、設定時刻以降の学校への電話は自動的に教育委員会に転送される機能（ボイスワープ）等を設定した。期間中、退勤時刻厳守の達成率は約70%。業務に対する時間管理の意識が高まり、会議時間の短縮や見通しを持って業務を行うなど、教職員の意識の高まりが顕著に見られたようだ。

共通事項の三つ目は「人的措置の分析」。多忙の緩和に最も効果的なことは、学校に「人」を投入することだ。“教師を倍増”とはいかなくても、“教師でなくてもできる仕事”を引き受けてくれる人々がいれば、おそらく多忙はずいぶん緩和される。夢プロではモデル校に人的配置も行っている。単純に多忙緩和が目的ではなく、各校で配置された人材をどのように活用すれば効果的なのかを検証する。4校には加配教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが重点配置された。有効性が期待されている業務アシスタントも平成29年度から配置された。

やめる・へらす・かえる

モデル校の1年間の取り組み結果を受けて夢プロ委員会から「学校現場の勤務環境の改善に向けて」次の6つの提言が出された。

- (1) 校務の整理 (2) 教職員の意識改革（時間管理の徹底）(3) 積極的な情報発信
- (4) 人的措置の充実 (5) 管理職の学校マネジメント力の向上 (6) チーム学校の推進

提言の中で「校務の整理」について、こんな視点が示されていた。「やめる、へらす、かえる」校務の何をやめるか、どこを減らすか、どう変えるか。思い切ってそれを実行しなければ、多忙は今後、さらに膨らんでいく。

子どもたちのためにすべきこと

夢プロでは「教職員の意識改革」は時間管理への意識をさしているが、「やめる、へらす、かえる」には、教師という職にある人たちがおそらく共通に持っている意識を改革していかなければならない。「子どもたちのために、どんな労も惜しまない」。尊いことだが、間違いなくそれが、自身の多忙の解消も緩和もできない大きな要因になっている。自助努力の部分を考えてみる。

どんな活動にも何らかの教育効果があるからやめられない。子どもたちのために心を込めて取り組みたいから手間を減らせない。子どもが楽しみしているからこのやり方は変えられない。何から何までやるのは大変だけど、自分がもっと頑張ろう…。この意識を変えて、整理して気づいた「教師でなくてもできる仕事」を、割り切って手放せるかどうか。この問題が前に進める鍵になる。かつて、多忙の緩和を扱った記事の取材で、小学校の校長先生から「労力対効果」という視点を教えていただいた。「どんな活動にも何らかの効果はある。しかし、あまりにも労力がかかりすぎるものは、やめるか変えていかなければならない。「やめる、へらす、かえる」ための視点になると思う。その学校では、校長着任以前に2泊で行っていた5年生の宿泊体験を1泊に変えたことで、教師どころか子どもたちの負担も減ったそうだ。「学校は新しいものを受け入れにくいところがあります。これまでやってきたことを継続す



るのが、いちばん否定されにくい。新たなことを考えて、今までの行事をやめると、教員からも保護者からも『先生、どうしてあれをやめたの?』と言われる。勇気を持って変える、そういう意識を持てる教師がたくさん出てこない、なかなか変わりません。教師が何事にも一生懸命なのも、やめるとか変えることに慎重なのも理解しているつもりだ。だからといって、すべて抱え込んで、1から10まで自分でやったことに満足できても、疲れた顔で授業していたのでは、子どもたちは困る。子どもたちのために頑張るだけでなく、自分の生活も大事にして心身を休め、子どもたちのために元気でいい授業をすることこそが教師の責任ではないか。

夢プロでは、教師が本来やるべき業務に集中できる環境を提供して、子どもにとって本当にいい学校、学びの質が高まる学校であることを目指している。夢を見るだけでなく、実現させたい。

☆書籍の紹介☆ ~ご利用をお待ちしています~

【大人を黙らせるインターネットの歩き方】 小木曾 健

「個人情報」「ネットいじめ」に「成績」「炎上」…。インターネットには大人たちの心配のタネがいっぱい。だったら、そんな心配を吹っ飛ばす知恵を提案してあげよう！大人も黙って納得する、無数の「ネットとのつきあい方」を教えます。



【11歳からの正しく怖がるインターネット:大人もネットで失敗しなくなる本】

小木曾 健

一度ネットで起こしてしまった失敗＝炎上は、進学・就職・結婚など大事な場面で繰り返しあなたの人生をじゃまする。日本全国40万人以上に伝えられたネットを安全・安心に使うための「絶対に失敗しない方法」をイラスト入りでわかりやすく紹介します。

~お知らせ~

《市教研各部会・研究協力校等関係》 ※提出期限厳守

＝各部会共通＝

- 総括教研部会報告書
- 事業実績報告書
- 研究集録原稿

提出期日： 1月29日(月)

＝研究協力校・研究グループ＝

- 研究集録原稿
- 事業実績・決算報告書

提出期日： 1月29日(月)

提出期日： 2月15日(木)

